

多発する災害と復興支援

いわて生協 池田 亮

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、まもなく8年を迎えようとしています。復興が進む中、一昨年には台風10号による被害もあり、岩手県では大きな災害が続きました。そしてまた、全国各地で様々な災害が続いています。今年だけでも6月の「大阪北部地震」、7月に岡山県や広島県、愛媛県で特に被害の大きかった「西日本豪雨」、その後も大型台風の来



住宅地の公園に設置されたボランティアセンター

襲が続き、9月には「北海道胆振東部地震」と、毎月のように多数の犠牲者が出る災害が続き悔やまれます。加えて、近年は豪雪や猛暑などで犠牲となる人もいるなど、それも災害といえるかもしれません。私は、いわて生協で復興支援活動の仕事に携わり、主に被災地でのボランティア活動や生業再生のお手伝い、全国の生協への情報提供などを行っています。また、全国で災害が発生した際は、現地へ赴き、ボランティアセンター運営のお手伝いもさせて頂いています。生協の連合会である日本生協連からの呼びかけもありますが、それよりも東日本大震災で全国のみなさんに御支援いただいた恩返しもしたいという気持ちの方が強いかもしれません。今年8月には豪雨災害の広島ボランティアセンター運営支援に行きましたので、その状況を報告させていただきます。被害の大きかった安芸区は、広島市の東側に位置します。国道2号線やJR山

陽本線など交通の大動脈が通る一方、急峻な地形の沢沿いに宅地開発が行われ、砂防ダムの下に住宅が並んでいるところもありました。そのような地形と、花崗岩が風化した「真砂土(まさどこ)」が、岩盤の上に堆積していると、多く、大雨が降ると浸透するのではなく、流れ出るので被害が大きくなったようでした。宅地は、土砂や水に押し流されているので、その通り道にある住宅は押しつぶされ跡形がないところもありました。夏休み中の学校の校庭は土砂で埋まり、鉄棒の頭がころうじて出ているくらい土砂が堆積しているところもありました。

災害ボランティアセンターの役割は、ボランティアをしたい人とお願ひしたい人を調整することです。応援者の業務は、ボランティアに来た方の受付や資材管理が中心です。私が入った8月19日〜22日は猛暑というほどではありませんでしたが、お盆休み明けで、ボランティアの数は1日当たり100人に届かず少ない目でした。それでも、夏休み中の大学生が多数参加していました。

ライトを含む)が設置されたこと、猛暑で1日の活動時間が限られていることなどから、作業はなかなか進まずボランティアは絶対数が足りません。一人で参加していた女子大学生にお話しを伺ったところ「自分も大雨で車ごと流されたが無事だったし、家も被災地域ではないので、時間があるときは困っている方の役に立ちたくて参加している」とのことでした。また、東日本大震災でお世話になったという東北からのボランティアも多数来ていました。恩返しをしたい気持ちは、みなさん同じなんだと思います。

広島での活動後に岡山県倉敷市真備町のボランティアセンターを訪問して状況をうかがう予定でしたが、台風接近のため真備町内の視察に変更しました。河川より低い位置に住宅が立ち並んでいる場所では、2階まで浸水した住宅も多くありました。広島市とは違い、真備町は浸水による被害なので建物自体は残っていました。同じ豪雨災害でも、地形などにより状況は異なっていました。

われております。それはいたし方ないのかもしれませんが。県でも復興教育を進めているところですが、授業日数の確保や様々な行事との兼ね合いで、実施が難しい場合もあるとお聞きします。以前、私が学校評議員を務めた学校も、復興支援のボランティア活動を行っていましたが、授業日数の確保のためにできなくなったとのこと。しかし、震災の出来事や防災について学習する時間は学校でも家庭でも大切にしてほしいと思います。

岩手の子ども達が大人になったとき、教訓を語り継ぎ、多発する災害から身を守り、命を大切にすること、率先して人の役に立つことに関わってほしいと願っています。

プロフィール

池田 亮
(いけだ りょう)
盛岡市出身。1996年いわて生協に就職。現在は復興支援活動グループに在職し、中越地震や熊本の震災の災害支援にも派遣された。

